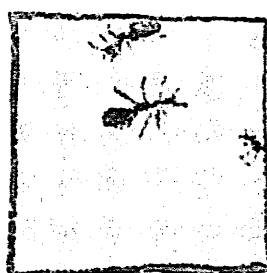
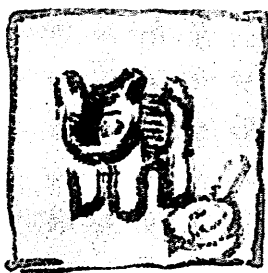
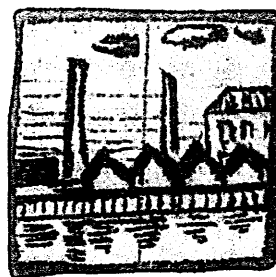
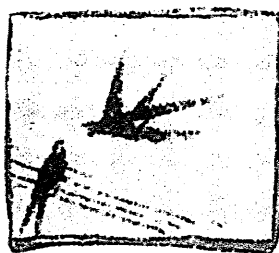


**Newsletter  
from  
the Free workers'  
federation**

**自由労働者連合**

**la Federacio de ChifonProletoj**



**BOTTOMS**

第 22 号

Winter, 2022

# 武蔵野五輪弾圧裁判に勝利しよう！ 五輪有罪！バクチク無罪！

## 3・21 関西支援連帯集会

2021年7月16日に東京都武蔵野市でおこなわれた五輪組織委員会主催の「聖火」セレモニーに対してバクチクを鳴らした黒岩大助さんが「威力業務妨害」で逮捕・起訴され、139日間も勾留されました。私たちは国威発揚とナショナリズムを動機とするオリンピックの原型とも言えるナチス・ドイツのベルリンオリンピック（1936年）に対する抵抗と対抗の闘いからオリンピックの本質を浮き彫りにするとともに、正当にも抗議した黒岩さんの無罪判決を勝ち取る為に、関西において支援連帯集会を開催します。是非、ご参集ください。

【日時】2022年3月21日(月)13:30開場 14:00～

【会場】大淀コミュニティセンター・ホール

資料代カンパ:800円

第1部 14:00～

●発言 黒岩大助さん(武蔵野五輪弾圧当事者)

●講演「ベルリンオリンピック抵抗闘争」

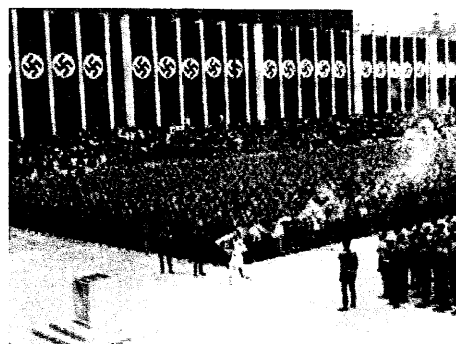
金羽木徳志さん(釜ヶ崎パトロールの会)

第2部 15:30～

●講演「幻のバルセロナ人民オリンピック」

田中ひかるさん(明治大学)

●質疑応答／個人・団体アピール



共催:釜ヶ崎パトロールの会 / 自由労働者連合

連絡先: 自由労働者連合

〒576-0033 大阪市中央区内淡路町1-3-11 シティコープ上町402号室 市民共同オフィス SORA

電話: 06-7777-4935 (呼び出し)

Mail: [free\\_workers\\_federation@riseup.net](mailto:free_workers_federation@riseup.net)

URL: <http://federaciodechifonproletoj.wordpress.com/>

私、そして私たちは、そもそもオリ・パラそのものに反対です。なぜ反対するのか？①国家・政府の国威高揚、②「オリンピックファミリー」「五輪貴族」と呼ばれる者の特権化、肥大化、③大資本、大企業の飽くなき利益の独占、④長年住み続けている人々や野宿している人々などに対する強制排除、⑤貧困層やオリ・パラに反対する人々に対する暴力や虐殺、⑥戦争や侵略への利用、⑦テロ対策、治安対策と称しますます強化される警察・軍隊の武器と監視・管理システム、⑧自然や環境の破壊、⑨優性思想に基づく分断、⑩第1回大会から現在にいたるジェンダー差別、⑪大会のたびに肥大化する準備・開催費の負担などが理由です。その詳細については今後の意見陳述や証言などで明らかにしていきたいと思います。

オリンピックは125年、パラリンピックは61年の歴史がありますが、この東京で幕をおろしましょう。この裁判がそのための一助になれば幸いです。オリンピック・パラリンピックが廃止になるまで私たちの闘いは終わりません。

武蔵野五輪弾圧裁判 被告人 黒岩大助

冒頭意見陳述より

2021年11月26日 東京地裁立川支部101号法廷

2013年9月12日、東京オリンピック開催決定に国を挙げての歓喜のなかで国民の支持によって熊谷徳久死刑囚(73)の死刑が執行されました。今となっては人々から忘れ去られたあまりにも小さなエピソードですが、わたしたちはオリンピックというナショナリズムと国威発揚によって『国民』としての意識を迫られることが、同時に『国民』であるにもかかわらず『国民』としてみなされない者、『国民』ではないにもかかわらず『国民』としてみなされる論理へと展開され、『国民』としてみなされない者に対してはどのような形であれ、そこからいなくなることでナショナリズムと国威発揚の時空に参加を強いられた歴史を想起するならば、そして、この論理が戦争ともなればより強力に働いた歴史を想起するならば、熊谷徳久の死刑執行とは極めて大きな問題を抱えていたと考えます。一人の人物でもって歴史を語ることは慎重にならなければなりません、熊谷徳久の死刑執行が単に彼個人のエピソードにとどまるものではなく、彼の最期の道程とは、彼がみるができなかったその後の東日本大震災の避難者、都営住宅から追い出された住民、路上や公園から追い出された野宿者、そして、コロナ禍で生活を破壊された人々が歩かざるを得なかった道程に続くものだったのですから。このことは、オリンピック聖火セレモニーで爆竹を投げて抗議した耳に障害を持つ黒岩大助から、さすがに死刑執行まではしないと、警察が補聴器を取り上げ、その応えとしたことから分かるのではないのでしょうか。

近代のオリンピックのモデルが1936年のベルリンオリンピックにあることは今さら言うまでもないでしょう。ゲルマン民族、とりわけアーリア人種の優秀性、ベルサイユ体制の楔からの解放などのスローガンが掲げられたオリンピックですが、ヒトラーに反対する人々は街中にぶら下がったハーケンクロイツを引きずり下ろし、各国のオリンピック選手団にピラを配って抗議しました。その中にはヴェルナー・ゼーレンビンダーのようなドイツ共産党員でありながらレスリング選手としてベルリンオリンピックに出場し、その立場を利用してナチスに反対した人もいたのです。1936年のこの年、当局に摘発されたピラは164万3000枚に上ります。もちろん当局が摘発できなかったピラを含めればもっと多くのピラが配られたわけです。

そして、スペインではナチスのベルリンオリンピックに対抗して人民オリンピックが準備されました。開会式当日に軍事蜂起したファシスト・フランコに対して、人民オリンピックの選手たちは国際旅団などの民兵組織に参加し、反ファシズム闘争に合流したのです。

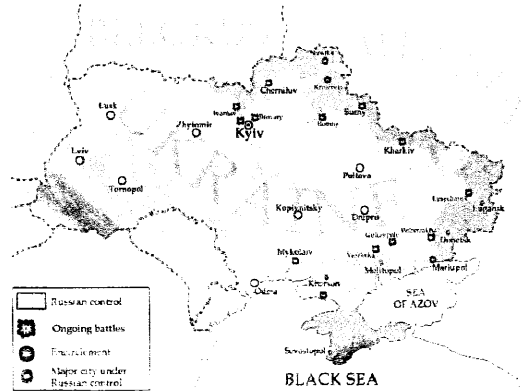
ナショナリズムと国威発揚のオリンピックは必然的なまでに抵抗を生じさせるものです。なぜならそこには黒岩大介が冒頭意見陳述で喝破したように暴力と戦争があるのですから。そこに向けてスポーツに政治を持ち込むな！ と言ってみたところで何になるのでしょうか。

わたしたちは黒岩大助を支持する！ 罪人として吊しあげられるべきは誰なのか！

# アナキストの立場からみたウクライナ情勢についてのメモ

浦底平吹

ロシア帝国主義によるウクライナ全土に対する軍事侵攻が2月24日に始まった。これまで自由労働者連合では2年以上かけてP・アルシノフ著『マフノ運動史 1918～1921』の読書会で、クリミア半島やドンバス地方の現状、「ヨーロッパの穀倉地帯」をめぐる中近世以来の侵略と植民地主義支配、ソ連によるホロドモール(強制移住、大飢饉)についての話なども交えてテキストを精読した。そして、周辺の帝国列強から絶えることのない侵略と抑圧・搾取に対する農民蜂起の伝統から生じたウクライナ革命叛乱軍、自由ソビエトなどの闘いについて理解を深めてきた。



日露戦争敗北後の帝政ロシアでは1905年革命やロシア各地で農民蜂起が相次ぎ、第一次世界大戦には反戦・反帝政のうねりが1917年革命を招来した。ウクライナ全土に広がった農民蜂起によって貴族や教会の大地主から土地を奪還し、工場を占拠し、ウクライナ南部のグライボレを根拠地として各地域でのアナキズム的自治や工場自主管理、自由ソビエト建設へと向かった。

他方では、ブレスト単独講和によって民族主義勢力のペトリューラらの「人民共和国」は、農民蜂起で解放されたウクライナの土地をドイツ・オーストリア帝国主義に差し出して独逸軍を呼び込み、キエフを中心にウクライナ西部を軍事支配した。また、帝政ロシア派のデニキンの白軍がウクライナ東部から侵攻する中で、モスクワからはロシア赤軍がハリコフを軍事占領して「社会主義ソビエト共和国」を名乗って農民蜂起を弾圧した。マフノ軍ら農民蜂起によって解放されていた土地を奪い、収穫物をモスクワへ運び出し、マフノ運動の影響下にあるウクライナ各地の自由ソビエトを攻撃した。3年におよぶ内戦を経て、民族主義者、帝政ロシア派白軍、ポリシェヴィキ赤軍に挟撃されながら血の海に沈んだウクライナ革命だが、ソ連によるアナキスト、農民活動家やその家族、支持者らへの徹底的な処刑・虐殺とラーゲリ送致、ホロドモールにも関わらずマフノらが遺したアナキズムの種子はウクライナの大地で再び芽吹いていることを私たちは今日撃している。



現在、ロシア帝国主義の侵略軍に抵抗するウクライナのアナキストたちが、「ロシア軍に対する領土防衛」の分遣隊として武器供与を受けて民兵組織「レジスタンス委員会」を組織した。彼らは世界にむけて志願兵や軍資金カンパ等と呼びかけており、3月3日時点で小隊規模に増員し、各々任務に当たっている。また、ウク

ライナ・ポーランド国境では国境警備隊によって国外脱出を足止めされているアフリカ系労働者・学生など非白人種に対する支援をおこなう「連帯作戦」、ウクライナ現地のアナキストの諸活動を支える為のアナキストブラッククロス(ドレスデン)など様々な行動が始まっている。

厳しい弾圧と情報統制下のロシアでは、日露戦争敗北後の1905年革命、第一次世界大戦後の1917年革命を念頭とする自国敗北主義に立つ革命的アナキズムの原則に則り、アナキストブラッククロス(ペテルブルグ)が分析と情報発信をおこなっている。その他、CNT-AITをはじめ世界各地で相次いで声明やデモが組織され、反権威主義、反国家主義、反帝国主義のアナキズムの立場から労働者民衆の連帯を訴えた。ウクライナをめぐるアナキストの具体的な取り組みが活発に為されるだろうし、今後も増えていくだろう。

**Anarchist Black Cross, St. Petersburg  
- Statement gegen den Krieg**

Wir, die anarchistischen Gruppen in St. Petersburg, sind entschlossen, gegen den Krieg zu kämpfen. Wir sind bereit, alle unsere Kräfte einzusetzen, um die Freiheit und die Unabhängigkeit der Völker zu erreichen. Wir sind bereit, alle unsere Kräfte einzusetzen, um die Freiheit und die Unabhängigkeit der Völker zu erreichen.

Wir, die anarchistischen Gruppen in St. Petersburg, sind entschlossen, gegen den Krieg zu kämpfen. Wir sind bereit, alle unsere Kräfte einzusetzen, um die Freiheit und die Unabhängigkeit der Völker zu erreichen. Wir sind bereit, alle unsere Kräfte einzusetzen, um die Freiheit und die Unabhängigkeit der Völker zu erreichen.

Wir, die anarchistischen Gruppen in St. Petersburg, sind entschlossen, gegen den Krieg zu kämpfen. Wir sind bereit, alle unsere Kräfte einzusetzen, um die Freiheit und die Unabhängigkeit der Völker zu erreichen. Wir sind bereit, alle unsere Kräfte einzusetzen, um die Freiheit und die Unabhängigkeit der Völker zu erreichen.

Wir, die anarchistischen Gruppen in St. Petersburg, sind entschlossen, gegen den Krieg zu kämpfen. Wir sind bereit, alle unsere Kräfte einzusetzen, um die Freiheit und die Unabhängigkeit der Völker zu erreichen. Wir sind bereit, alle unsere Kräfte einzusetzen, um die Freiheit und die Unabhängigkeit der Völker zu erreichen.

No Pasaron!

[Anarchist Black Cross, St. Petersburg](#)



ブルジョワメディアは、「民主主義陣営 vs 専制主義陣営」という新たな冷戦構図を描くことで冷戦後の帝国主義間の覇権争いである本質を隠蔽して国連や欧米帝国主義にあくまで寄り添い、ウクライナ国旗をシンボルにしてロシアへの憎悪を煽る右翼ナショナリストとすら腕を組んで恥じない反戦平和運動、あるいは反欧米・露中擁護の為にはやデマや陰謀論とも言える言説を撒き散らすマルクス主義の一派。その間をウロウロと動揺しながら言説を日々変節させるリベラル知識人層など、これらの危うく薄い思想性やそれらのプロパガンダをもものともしない内実を備えた行動がウクライナとロシアのアナキストの側から提起されていくだろう。現代ウクライナにマフノはいないが、マフノ

らの志を継ぐ者たちがウクライナにも世界中にも無数いるからだ。

ジョージア戦争、チェチェン戦争、クリミア併合時と比べてロシア国民の支持も揺らぎ始めたプーチン政権は情報統制に躍起である。ロシア政府系メディアの支持率は70%だが、インターネットでの支持率はわずか9%と伝えられている。ロシアでは若者たちを中心に全国60都市で反戦デモに立ち上がり、数千名を越える逮捕者を出しながらもウクライナを侵攻したプーチンに対する闘いを止めようとはしない。

世界中の労働者民衆はウクライナ・ロシアの労働者民衆とともに手を携えて、扇情的な国家主義や民族主義に騙されることなく国境を越えて連帯し、ウクライナ争奪をめぐる欧米露帝国主義列強の覇権主義による戦争に反対し、地球上からすべての帝国主義と覇権主義、権威主義を打倒・一掃しよう！



## 大阪キタ越年越冬闘争の現場から

金羽木徳志

寒いけど、もう少しの辛抱ですよ。

元気を出して春を待ちなさい。

私は雪の中の親なし児です。

だけど泣きませんよ。

足が冷たいと泣きませんよ。

私は足を大切に温めておりますもの。

だから今にごらんください。

だれよりも先に、元気のよい、美しい花を咲かせますよ。

『落のとう』 山代巴

### 孤独死について

今から約 30 年前の 1991 年 11 月 12 日の朝日新聞に「中年の兄弟栄養失調死」という見出しの 31 行の記事がありました。59 歳と 53 歳の兄弟が団地の一室でひっそりと死んでいたのです。死後 10 日もの間、誰にも気づかれることもなく。当時としては、このような死に方自体、それも栄養失調と寒さによる衰弱死と断定されたことが普通ではないこととして、珍しいこととして読者の関心を引くだろうと編集部で考えたからこそこれだけの長さの記事になったようです。何しろこの頃のテレビときたら、飢えに苦しむアジア・アフリカの子どもたち—あの蠅にたかられてお腹がポコッと出て、何の食べ物かよくわからない配給食を食べている—の現状が延々と放送され高視聴率となっていました。と、書くわたしもそのテレビを見てこの世界のことを考えるようになりました。普通に考えたら、「アジア・アフリカじゃあるまいし、なんでこの日本で大の男が 2 人もそろって栄養失調で死ぬのか、仕事しろよ！」だし、いいえ、別にそんなこと言われなくてもこの兄弟も時おり警備員や土方に行っていました。しかし、結果として日干ししないで済むぐらいの稼ぎはなかったようです。新聞には母親が 4 年前に死んでいたと書いてありますが、それまではどうだったのでしょうか。時おりであっても警備員や土方に行っていたのなら、身体に障害があるとか何かの病気にかかっていたわけでもないようです。でも、新聞によると、定職がなく、家賃も 13 ヶ月滞納し、電気も 3 ヶ月止められていた。室内には食料もなく冷蔵庫の中も空だったと書いてありました。結局のところ何でこんなことになったのかはわかりません。

さて、それから 30 年たった今現在、こんなことは何も珍しいことではなくなりました。一昨年、大阪府警が発表したように大阪府管内だけで年間 2996 人が孤独

死しているのですから。この兄弟と同じ働き盛りの50代の孤独死が392人です。1ヶ月以上経って見つかった遺体が382人です。こういう風に人の死の数量の恐ろしさ、悲惨さにして考えたのがわたしたちの「常識」なのですが、その数量が大きくなればなるほどそこにある一人一人の顔や名前が見えなくなり、一人一人の死が見えなくなってしまうことに注意しなければなりません。2996人の孤独死が一律のものではないのですから。バブル時代に栄養失調で死んだ2人の兄弟もよくわかりませんが、最近、インターネットでアップされていた尼崎の高齢女性の孤独死もよくわかりません。何しろ、アパートに住み、年金手帳もあり、3千万円からの現金を持って死んだのに、身元不明の「行路病死」として処理されたのですから。インターネットの「行路病死」のサイトには、何百万円もの大金を持って孤独死した人たちの情報がいくつもあり、こうなってくると食べ物があるとなかろうと、お金があるとなかろうとあまり関係ないのではないのでしょうか。ミもフタもない言い方ですが。

そうは言っても食べなければ身体は弱っていき、そのままほっとけば死ぬことにもなるならやはり食べなければならぬでしょう。今や、炊き出しに、子ども食堂に、大人食堂、食料無料配布。数年前、大阪大学では当局が学生に朝ごはんを無料提供していました。何でこんなことになったのでしょうか。それは今の政治が悪いからだ！それはそうでしょうね。でも、選挙をすればその悪い政治家が勝っているじゃないですか。その悪い政治家が子ども食堂の支援をやっていますよ。もう、どうなっているのでしょうか。倒錯するにもほどがあるでしょう。

そもそも炊き出しにしても食料無料配布にしても地震とか台風とか不況で生活が破綻したとかのように何かにつまずいた時の一時的なものだったはずです。生活保護にしてもそうでしょう。つまずいた時に公的資金を投じることで生活を立て直すのが主のはずです。しかし、その炊き出しを毎日、毎日何年も続けることになるとすれば、その数が年々増えるとすれば、それは社会の在り方として問題があるのではないのでしょうか。ボランティア活動をして「子どもたちの笑顔」とか「ありがとうと言ってもらってうれしい」とか言っている場合ではありません。

### キタ界隈の支援のひろがりと矛盾

さて、わたしたちはこの年末年始も扇町公園で越年・越冬闘争をしました。その感想を言うなら、炊き出しに来る人たちの人数がほぼ一定だったことです。と言うのは、ここ数年、あちこちで炊き出しや食料提供をやっているものだから、炊き出しに来る人たちの間で食事の善し悪しの情報が広まっているわけです。野宿者支援が広がったと言えばそうですが、こっちが夜回りする同じ時間に、同じコースを別のグループも夜回りをして両方でお弁当を配っているのですから。それはお昼の炊

き出しにしてもそうです。扇町公園のこっちと反対側で同じ時間に炊き出しをしていました。やるな！とは言わないけど、なんか時間もお金も無駄ですよ。当事者たちはこっちのごはんを食べ終わると、反対側の炊き出しへ大急ぎで行っていました。いったい何を思って野宿のおじいさんや生活保護受給者たちの取り合いをしなければならないのでしょうか。わたしたち何をしているんでしょうね。

今回の越冬では梅田と天神橋商店街あわせて 15 人。10 年前なら梅田周辺だけでも 20 人はいましたが、今や夜回りで野宿者を鉦太鼓をもって探して歩く状態です。先日、テレビで某グループが唐揚げや海老フライが入ったお弁当を野宿者に配る番組を放映していましたが、そんなのこっちの炊き出しを比べられたらたまったものではありません。ひどい話になると炊き出しに来ておかずを見て帰る人もいるし、米とおかずの善し悪しで食べる量が違ってくるわけですね。ここ数年、炊き出しにしても越冬にしても来る人が 25 人来たかと思えば、次は 12、3 人。その次は 20 人、どうかすれば 5、6 人と毎回何人来るのかわからない状態が続いています。ごはんが足りないのも困りますが、ごはんが余って捨てることになるのも困ります。来た人に持って帰ってもえばいい？ 4 升も炊いたご飯や 30 人分のおかずを 10 人くらいで分けて持って帰りますか？ 毎回こんなことになるのでさばきやすいレトルトのカレーやカップ麺に変えたのですが、これはこれでウケが悪いですよ。いえいえ、炊き出しをやっていることを知らなくて来ないわけではありません。炊き出しが次いつあるかを知っていて来ないのですから。以前なら生活保護や年金の関係で参加者の増減がありましたが、最近では一概にそうでもありません。その人たちはふだん何を食べているのでしょうか。天神橋商店街で野宿する 83 歳の人がいていつも鍋釜運んだり、カートを引っ張って手伝ってくれるのですが、今回の越冬は来ませんでした。あとで事情を聞いたら体調が悪かったので寝ていたとのこと。これもよくわからないですね。こうして、食べることに困っているから炊き出しに来ているはずなのに、食べたい時だけ来て、食べたいものだけを、食べたいだけ食べるというのが現状です。

### **自分で食べるものを自分で用意する**

わたしたちの炊き出しではごはんもおかずも自分でよそって食べています。以前は優しい支援者がよそっていましたが、何のことはない当事者に任せたらどうなるかわからないという不信感の裏返しです。そこから変えていくつもりで参加者たちに任せました。後ろに並んでいる人がいるんだから、その人らのことも考えてよそえ！ いい加減いい年なんだからそれぐらい考えろ！ です。おい！ その若いの！ 金持っとる若いのがじいさん差し置いて最初に飯食って示しがつくか！ です。自分で食べたい分だけ食べられるので、それはそれで参加者たちには好評ですが、しかし、



おっかない炊き出しですよ。広島の子奥の古老たちが「煙たいムシロには座れるが針のムシロにはよう座れん」、「活動家の言葉は針のように刺さる」と言っていました、考えさせられています。しかし、その光景が越冬の支援にきた学生には衝撃だったようです。他所の炊き出しでは参加者が自分でよそって食べるなんてことはないと言っていました（なに？きんちゃんはおバカ正直で人がええからええなこと言うたら何かくれる思うとるんじゃろが！）。また別の人からは野宿者が自分たちで鍋釜やごはんを運んでいるのがすごいと言われたこともありました（おどれら、いっしょになって、なんぼええのええの言うても小遣いの面倒みちやらんど！。こないだ千円の寿司くわしちゃったろうが！唐揚げ弁当か！？なんでもええわ！）。自分が食べるものを自分で用意するという当たり前のことがここではすごいことになるのです。どう考えたらいいのでしょうか。

### キタの野宿者層の生活意識

今回の越冬では15人前後とほぼ一定の人数だったということです。すごくやりやすかったですね。しかし、それは単に事務報告でしかない。一昨年のもちつきには参加者5人（当該4人＋大学教員1人）でしたが、今年は15人くらい来て、最初は楽しくやっていました。そのうち「大根餅、海老餅なんか聞いたことがない！きな粉をもっと買ってこい！」と陰悪な雰囲気になり、参加者はどんどん減っていき、つきたての餅が寒風にさらされていました。…これのどこが越冬闘争なんでしょうね。なるほど、炊き出しは来るも来ないも自由だし、もっと言えばそれはそっちが勝手にやっていることと言えればそれはそうですが。しかし、それをあわせて準備している側はどうすればいいのでしょうか。これを読んでいる人からすればもう訳がわからないでしょう。何でこんなことになるのか、余りにもコミカルすぎて笑いたくなるでしょう。でも、これがここでの炊き出し活動のいつものことであり、それがここでのリズムになっているのです。

以前、野宿者から「ワシらは物が無い敗戦直後の時代に育ったわけではない！ちゃんと物がある時代に育ったんや！」と言われたことがありました。つまり、野宿する前はそれなりに落ち着いた、もっと言えばまともな生活をしていたと言うことのように。それを示すように衣料放出の時も「服は良いのだが、今履いている靴と合わない」と言っていました。この人はわたしのように年から年中同じ服を着ている着た切りズメではないわけです。70歳過ぎの人ですが、電車のキセルを知らないそうです。どれだけ真面目な人生を送ってきたのでしょうか。当然と言えば当然ですが、やはりこの人には野宿する前の生活スタイルが出ているのです。それは何もこの人だけではない。餅つきを仕切るAさんにしても、百人一首をすればドン取っていたBさんにしてもそうです。野宿する前はお正月に餅つきや百人一

首をする生活だったわけです。

毎年、元旦の朝はお年賀が一枚もなく部屋でシクシク泣いていたわたしとは全然違います。ここ数年、越冬でお酒やタバコを用意しても余ります。飲み過ぎてペロペロンになっているのはわたしです。そういう人たちが野宿生活になった時、食事についての善し悪しが出てくるのは当然だし、仕方がないことでしょう。しかし、準備するこっちはそうはいかない。元の生活に合わせてごはんを作っていたのではお金がいくらあっても足りません。石原軍団やジャニーズの炊き出しなら高級食材も使うでしょうが、わたしたちは石原軍団ではありませんから。そう考えるなら、大人食堂や500人規模の食料無料配布に並ぶ人たちは私たちの炊き出しに並ばないでしょうね。何故なら、ホームページに自動車で来ることを断る趣旨が書いてあるぐらいなので。つまり、まだ自動車を持てるぐらいには生活に困っているということでしょう。いえいえ、わたしのように極貧家庭であってもお父さんが身体障害者で移動の為に自動車があったことを思えば生活困窮者が自動車に乗っても悪くはないのですが、どうも違います。たぶん、生活が困窮している、ごはんがちゃんと食べられていないというイメージや基準が違うのではないのでしょうか。極めて当たり前のことです。

わたしが高校生の時に食べたお弁当のゲンナリしたあの気持ち、というのはお母さんが近所の飲食店で働いて、お客さんが食べ残して菌形のついたハンバーグがお弁当に入っていたのですが、そういうものを子どものお弁当に入れられるほど——実はお母さんも子供の時、親から、わたしのおばあさんですが、近所の弁当屋の残りをもってきて学校のお弁当にしていたため同級生から「乞食じゃ！ホイトじゃ！」とバカにされていた——それをためらいながらも食べたほどの生活困窮とは違うのかも知れません。でも、食料無料配布に来ている人たちだってそれをアテにしている訳ですから生活に困っているのでしょう。たぶん、炊き出しに来る野宿者たちもそうだと思います。お正月に餅つきや百人一首をしたり、服を着るなら上から下まできちっと合わせたりする生活レベルを野宿生活によって落とすわけですから。何ともやりづらいですよ。



## 古田大次郎 — 近代日本の自由人たち(6)

これで万事決まったのだ。  
予想通りいい夕方だ。  
しかし、死ぬにはあまり淋し過ぎる。

長井風天

### 1. 古田大次郎(ふるただいじろう) 生涯

大正時代のニヒリス的なアナキスト、社会運動家。陸軍官吏の次男として東京にて出生。大正 6(1917)年に麻布中学校を卒業後、早稲田大学高等予科、次いで大学部英法科に入学(後に政経学科に転部)。学内の雄弁会に入部し、民人同盟会から建設者同盟に参加。渡辺善寿、長島新らと小作人社を結成、機関紙『小作人』の編集責任者となる。中浜哲(中濱鐵)と知り合い、1923年春に反逆者クラブ(後のギロチン社)を結成。大企業相手のゆすり(リヤク:略奪)への傾斜にはなじめなかったが、資金稼ぎの銀行襲撃で一行員を刺殺(小阪事件、1923年)、次いで和田久太郎らのテロ活動に合流。関東大震災後に虐殺された大杉栄たち(甘粕事件)の復讐を狙った福田雅太郎大将狙撃事件(甘粕事件当時の戒厳司令官、1924年)に関与。東京地裁で死刑の判決を受け、控訴せず刑死した(1925年10月15日)。25歳。獄中で記された回想類(死後に発行)はベストセラーになった。著作に『死の懺悔』、『死刑囚の思ひ出』。

### 2. 古田大次郎 年譜

- 1900年 1月1日(明治33年) 東京麹町に陸軍主計官の父古田和三郎、母ゑつ子の次男として出生。
- 1906年 青山小学校に入学するが、二学期には青南小学校に転校。
- 1911年 小学生時代は軍国主義的な教師に反抗的だった。
- 1912年 麻布中学校に入学する。中学時代は孤独で学業も怠ける。
- 1917年(大正6年) 麻布中学校を卒業。早稲田大学専門部英法科予科に入学(後に政経学科に転部)。幸徳秋水の『社会主義神髓』を読み感激する。
- 1919年 民人同盟会に入る。この年、大杉栄、伊藤野枝に会う。
- 1920年 浅沼稻次郎らの建設者同盟に参加。夏、印刷工見習いとなるが、一週間で逃亡。年末、社会主義同盟の発会式に参加して検挙。
- 1921年 7月、友愛会の関東連合会大会に参加。これを契機としてアナキストになる。11月23日、母ゑつ子死去。この頃、卒業をひかえた早稲田大学を中退し、農村運動を計画、小作人社を結成。
- 1922年 雑誌『小作人』を編集、発行。また、農村運動のため埼玉県綾瀬に移る。3月、社会改造運動に献身する決意をかためる。6月、小作人社を解散。9月、神奈川県鶴沼に江口渙を中浜哲と訪れる。
- 1923年 春頃、東京の北千住に移り、ギロチン社の仲間と共同生活をする。8月末、大阪に行く。9月、号外で大杉栄らの虐殺を知り、その報復として甘粕照仁(甘粕正彦の弟)襲撃計画に参加。10月16日、小西次郎らと大阪の十五銀行小阪出張所の行員2名を襲撃し、1名を刺殺する。11月、朝鮮に脱出し、福田雅太郎襲撃のた

めの武器調達に奔走。

- 1924年 中浜哲の逮捕で朝鮮での武器調達計画を放棄、帰国。帰国後、爆弾製造に着手。7月、東京の下谷、青山墓地で爆弾の実験を行う。9月1日、和田久太郎らと福田雅太郎を襲撃するが失敗。再度の殺害計画も失敗に終わる。9月10日、逮捕。11月、東京市ヶ谷刑務所内で『死刑囚の思ひ出』を脱稿。
- 1925年 3月、予審終結。5月、公判開始。弁護人は、布施辰治、山崎今朝弥ら5名。9月10日、強盗殺人、爆発物取締罰則違反などにより死刑の判決を受けるが、控訴せず。この間、獄中で手記「参考書」を9月17日まで書き残す。10月15日午前8時30分、東京市ヶ谷刑務所内で死刑を執行される。25歳。
- 1926年 6月、江口渙らが遺された手記「参考書」をまとめ、春秋社から『死の懺悔』として刊行。
- 2014年 映画『シュトルム・ウント・ドランクツ』公開。古田大次郎を廣川毅が演じた。
- 2018年 映画『菊とギロチン』公開。古田大次郎を寛一郎が演じた。

### 3. 古田大次郎「遺書」

近藤憲二君  
岩佐作太郎君  
江口渙君  
加藤一夫君

後の始末よろしく頼みます。菊の花も見ないでゆくのが残念です。今大変静かでこの手紙を認めてみます。今日は秋晴れの好天気です。かうした朝に死ねるのは大変うれしく思ひます。

和田君や外の諸君は何をしてゐるか、お序での時、くれぐれもよくお伝へ下さい。手紙でお頼みした本の出版、是非おききとどけ下さるやう。同志諸君から一方ならぬお世話になりましたが、諸君からよろしく云つて下さい。

古人は、死を見ること帰するが如しと云ひましたが、之はけつして云ひ過ぎた言葉でもありません。恐怖も哀傷も何もありません。妙な気はしますが。(しかし死は要するに——原文抹消)生、死、これが人生の真実の相ですね。僕の墓は青山ですが、葬儀なぞやつてくれるのでしたら出来るだけ質素に静かにやつて下さい。つまらぬ空騒ぎや大袈裟なことはくれぐれもお辞します。

ただ、出来るだけ沢山花を飾つていただきたい。山に野に咲いてゐる可愛い花を。ここの庭に菊があつたが、遂にその花は見ないで終わりました。

書きたい事も沢山ありますが、皆さんお待ちかねのやうですから、これで失礼ませう。

では行つて参ります。

左様なら。

大正十四年十月十五日

午前八時二十五分

市ヶ谷刑務所

阿弥陀堂にて

古田大次郎



## 『広島 復興の戦後史 廃墟からの「声」と都市』を読む会 終了

鷲尾 拓

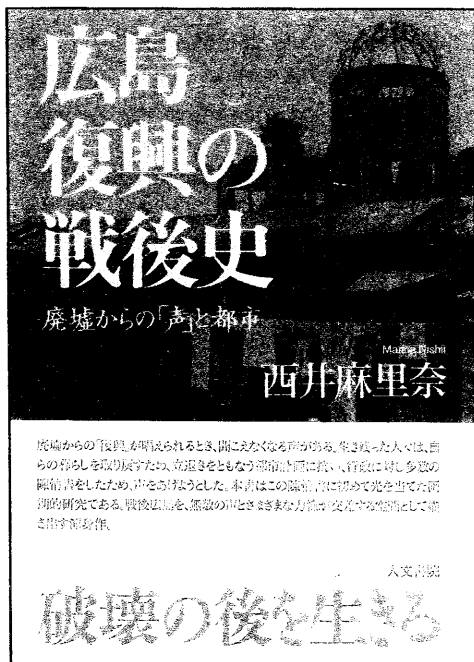
昨年(2021年3月)から始めた勉強会(『広島 復興の戦後史…』を読む会)を2021年12月に終えることができました。

ざっくりとした要約を作って内容の理解を進める者、詳細なレジュメを用意する者、本文中に登場する単語や文章の一つひとつを慈しむかのようにじっくりと丹念に読み解き、1ページ進むごとに参考資料がA3用紙で10枚くらいになる者など、取り組み方は様々ありましたが、とにかく無事に決着させることができました。

私たちは当初「原爆スラム」(現在の広島市中区基町)と呼ばれた町について関心を持ち、この書籍を読み進めました。原子爆弾によって文字どおり壊滅させられた都市—軍都広島—が、一体どのような経緯をたどって現在の姿になったのか、そこまで視野を拡げながら「広島復興」について学ぶことができたと思っています。

改めて思い知ったのは、広島復興は当初から「平和都市建設」ありきで進められたということでした。焼け野原となった広島に住まう人々が様々な「声」を発し、行政とのやりとり(「陳情書」での訴え)や、同じ被爆者である住民同士の対立や摩擦の中でどのように生き抜き、生活を再建させてきたのか、あるいは「復興」から、ある意味「排除」された人々がどうしたたかに生きてきたのか、そんな実態が理解できる内容でした。

今年の夏に著者である西井麻里奈さんをお招きし、講演をしてもらおうと企図しています。



### 『広島 復興の戦後史 廃墟からの「声」と都市』

西井麻里奈

序章 先行研究と本書の位置づけ …

第1章 廃墟と描線—都市復興のなかの境界画定

第2章 死者の都市—移動する墓碑の軌跡

第3章 顕在化する復興の境界線

第4章 禁じられた復興を生きる—広島平和記念公園

第5章 「不法占拠」という復興経験—

一九七〇年・相生通り調査から

終章 廃墟のなかの「声」を読みとく

## 水田ふうさんを偲ぶ会（2022.2.13）

雨の降る中、2020年2月16日に永眠された水田ふうさんを偲ぶ会に参加しました。宝塚市の大林寺にてご縁のあった34名の参加で催されました。

大林寺住職の木下達雄さんは、ふうさんらとともに市民運動として死刑廃止運動をはじめて取り組み、かたつむりの会を結成しました。死刑となって引取りの手のない遺骨を納骨できないかと多くの市民有志の尽力で2003年に大林寺の墓所に「死刑によって殺された人たちの碑」が建立されました。碑には「叫びたし 寒満月の 割れるほど」という句が刻まれています。免罪を訴えながら1975年に処刑された西武雄さんが詠まれたもので、向井孝さんの筆になるものでした。



石碑の横には墓碑銘（墓標）が建てられ、孝さんやふうさんたち「虹の会」が支援していた、2017年に獄死した東アジア反日武装戦線「狼」の元メンバーの大道寺将司さんの名前も刻み込まれています。「刑死者の碑」建立直前に孝さんが亡くなり、2年前にふうさんが亡くなりました。お二人の遺骨の一部が「永代供養塔」に納められ、お二人が生前に彫り込んだ「非戦の碑」を犬山から「刑死者の碑」の横に移されています。

キム・ミレ監督の映画『狼を探して』上映会の後、東アジア反日武装戦線「さそり」の元メンバーの宇賀神寿一さんの発題と質疑応答がおこなわれ、参加者各々の挨拶を終えて散会しました。

## アナキズム読書会（月1回）

H.M.エンツェンスベルガー著『スペインの短い夏』（1/26～講読中）

玉川信明著『FOR BEGINNERS アナキズム』（9/28～講読中）

次回：3月29日（火）18時半～ 市民共同オフィス SORA



## 目次

- ★武蔵野五輪弾圧裁判に勝利しよう！3・21 関西連帯集会
- ★自由労働者連合声明「覇権主義による戦争を阻止しよう」
- ★ウクライナ情勢についてのメモ
- ★大阪キタ越年越冬闘争の現場から
- ★近代日本の自由人たち(6)古田大次郎
- ★『広島復興の戦後史』を読む会
- ★水田ふうさんを偲ぶ会
- ★アナキズム読書会



## 編集後記

◆2月24日、ロシア軍によるウクライナ全土への侵攻が始まった。ウクライナでは激しい抵抗が続き、マスコミやSNSで現地の日々の戦況が伝えられ、世界中で反戦デモが巻き起こっている。ロシア軍による軍事侵攻が非難されるのは当然であり、ロシア帝国主義による侵略戦争を断じて許してはならない。一方で、ソ連・ワルシャワ条約機構の崩壊後のEU・NATOの膨張主義がウクライナの排外主義的ナショナリストによる(とりわけ欧米の極右・ネオナチをも包摂した「アゾフ大隊」によるドンバス地方でのロシア系住民や非ウクライナ民族に対して)8年に及ぶ攻撃とともに後景化されている。日本を含め世界中の反戦デモの象徴にウクライナの国旗が翻り、感情的でナショナリスティックな「反ロシア」の大合唱が響き渡っている。私たちは、アナキズムの諸原則の一つである自国敗北主義の立場から「反戦」「ウクライナ連帯」を隠れ蓑にしたこれら極右・ナショナリストとその同盟者の欧米日帝国主義に対して、明確に線を引き直さなければならない。ウクライナの武装したアナキストたち「レジスタンス委員会」をはじめサンクトペテルブルクのアナキストの呼びかけに引き続き注目していきたい。◆7月21日、東京・武蔵野の五輪「聖火」セレモニーでバクチクを鳴らした仲間が逮捕・起訴されたことに対して、支援連帯集会を3月21日に大阪で開催します。ぜひ、ご参集ください。◆第一インター(国際労働者協会)のハーグ大会においてM・バクーニンやJ・ギョームらの除名動議を可決した総務委員会のマルクス派に対して、反権威主義派がサン・ティミエ・インターナショナルを1872年に結成しました。そして、今年は創立150年を記念した世界大会がスイス・ジュラ地方のサン・ティミエで準備されていましたが、コロナ禍により来年7月に延期になりました。世界中から数千名ものアナキストが集まる重要な会合になると思いますので、何らかの形でコミットしたいものです。◆水田ふうさんを偲ぶ会に参加した。映画『狼を探して』が上映され、参加者の中で武装闘争と非暴力を巡る「激論」が闘わされた。ふうさんや孝さんをご存命であったらどのような話をされたらだろうか。

発行：自由労働者連合

宛先：〒540-0038 大阪市中央区内淡路町1-3-11

シティコープ上町402号室 市民共同オフィスSORA

電話：06-7777-4935 (呼び出し)

Mail：free\_workers\_federation@riseup.net

URL：http://federaciodechifonproletoj.wordpress.com/

カンパ送り先：

郵便口座番号 00960-6-145783

加入者名 自由労働者連合

2022年3月6日発行

1部300円